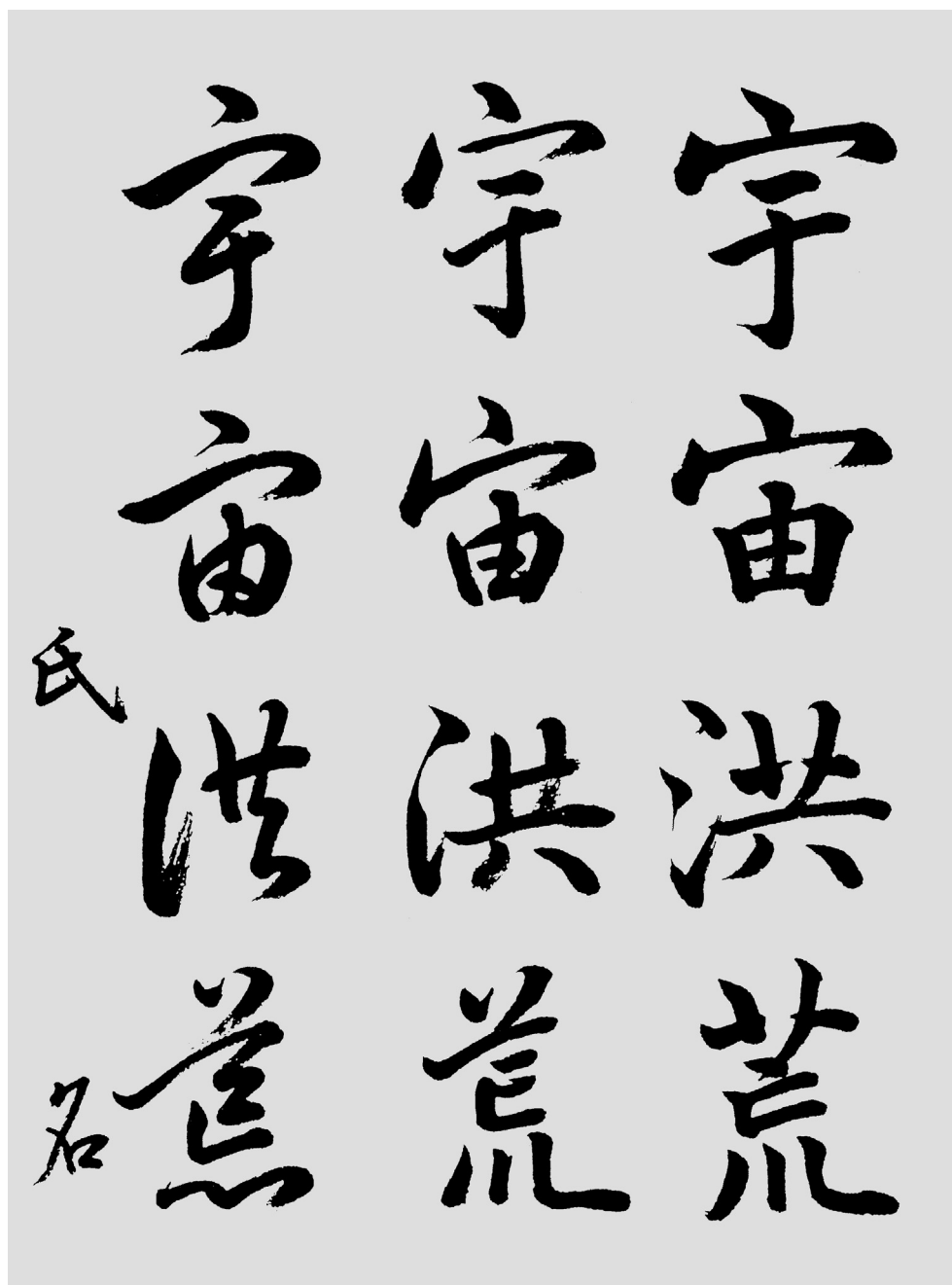


三体千字文を書く(2)

締切り 二月二十三日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B5判に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

天地玄黄
宇宙洪荒

天は黒く地は黄色であり、宇宙ははてしなく広い。

準初段から六段まで

新入から1級まで

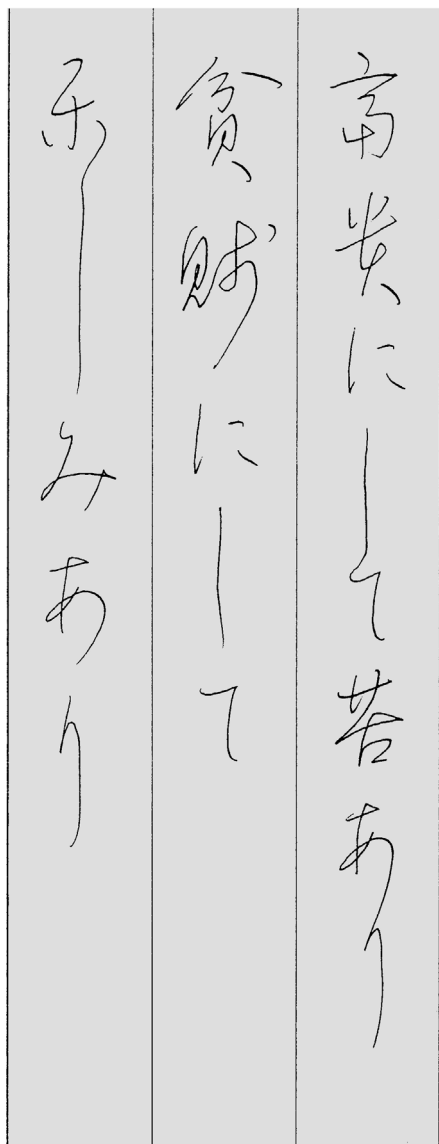
〔解説〕

〔解説〕

富 貴 苦 貧 賤 楽

◎草書は、古来の形体を踏襲し、自分勝手にくずしてはならなくて、年々影をひそめつつある。皆様には古典を読むため、又日本独特のかなに調和する漢字を書くためにもぜひ習って欲しい。

▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範＝楷書
▼師範＝行草または草書

◆3月課題予告（行書）
人は旧きに如かず
衣は新しきに如かず
晏子春秋

★富貴…（書体＝行草または草書）
日本のことわざ
喜怒哀楽といった様々な人間の感情は、身分や財産のあるなしに左右されるものではありません。金持ちだからといって幸福とは限らないし、貧乏でも喜びや楽しみが多くあります。相田みつをさんの詩「しあわせはいつも自分の心が決める」は、多くの人の心に響きました。

◆3月課題予告（楷書）
発言と沈黙との
時を知るは
大事なり

★我が家…（書体＝行書）
日本のことわざ
自分の家で食べている米の飯より、隣の家の、米より味が劣る麦飯の方がおいしそうに見える、という意味です。実際の味のことでありません。いつも慣れ親しんでいるものの良さはいつの間にか忘れてしまい、他人のものが何でもよく見え、うらやむ人間の愚かな心理についています。

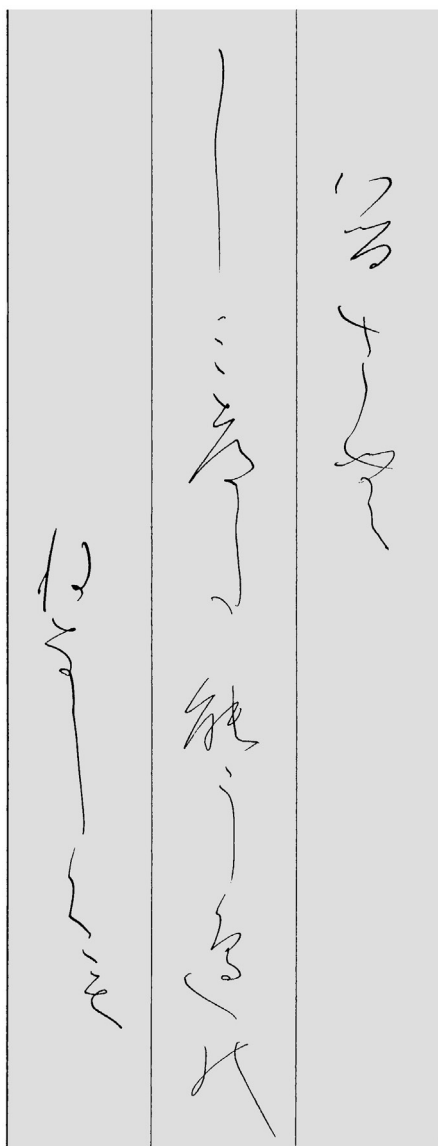
一般部かな課題

締切り 2月23日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

八留き無 三都多 能う邊能 ね奈 くら毛
春寒し水田の上の根なし雲

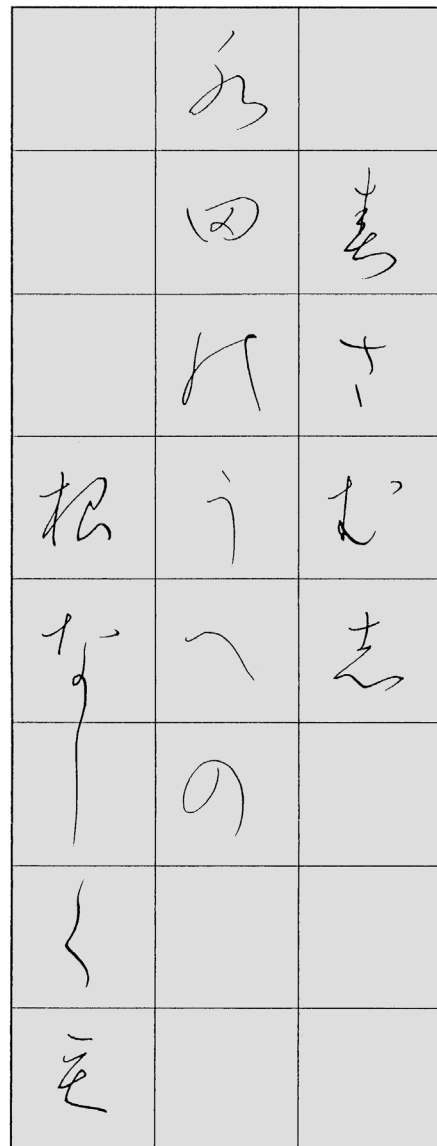


おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

さむ志 能うへ くら毛
春寒し水田の上の根なし雲



おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆3月課題予告

あしびさ こんだう と
馬酔木咲く金堂の扉にわが触れぬ

みずはらしゅうおうし
(水原秋桜子)

留る 無む 志し 都っ 邊へ
るるるる ら ら ら ら ら ら ら
すすすす 志し 都っ 邊へ
るるるる ら ら ら ら ら ら ら
るるるる ら ら ら ら ら ら ら
るるるる ら ら ら ら ら ら ら

〔古筆参考〕

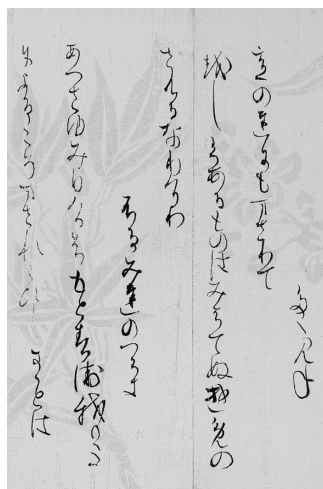
〔句意〕立春が過ぎてまだまだ寒い。一面に水をたたえた田の面に映る寂しげなちぎれ雲を見るにつけても、その感は一層深まることである。

はるさむ みづた うへ ね くら毛
春寒し水田の上の根なし雲

かわひがしへきごとう
(河東碧梧桐)

〔古筆参考〕

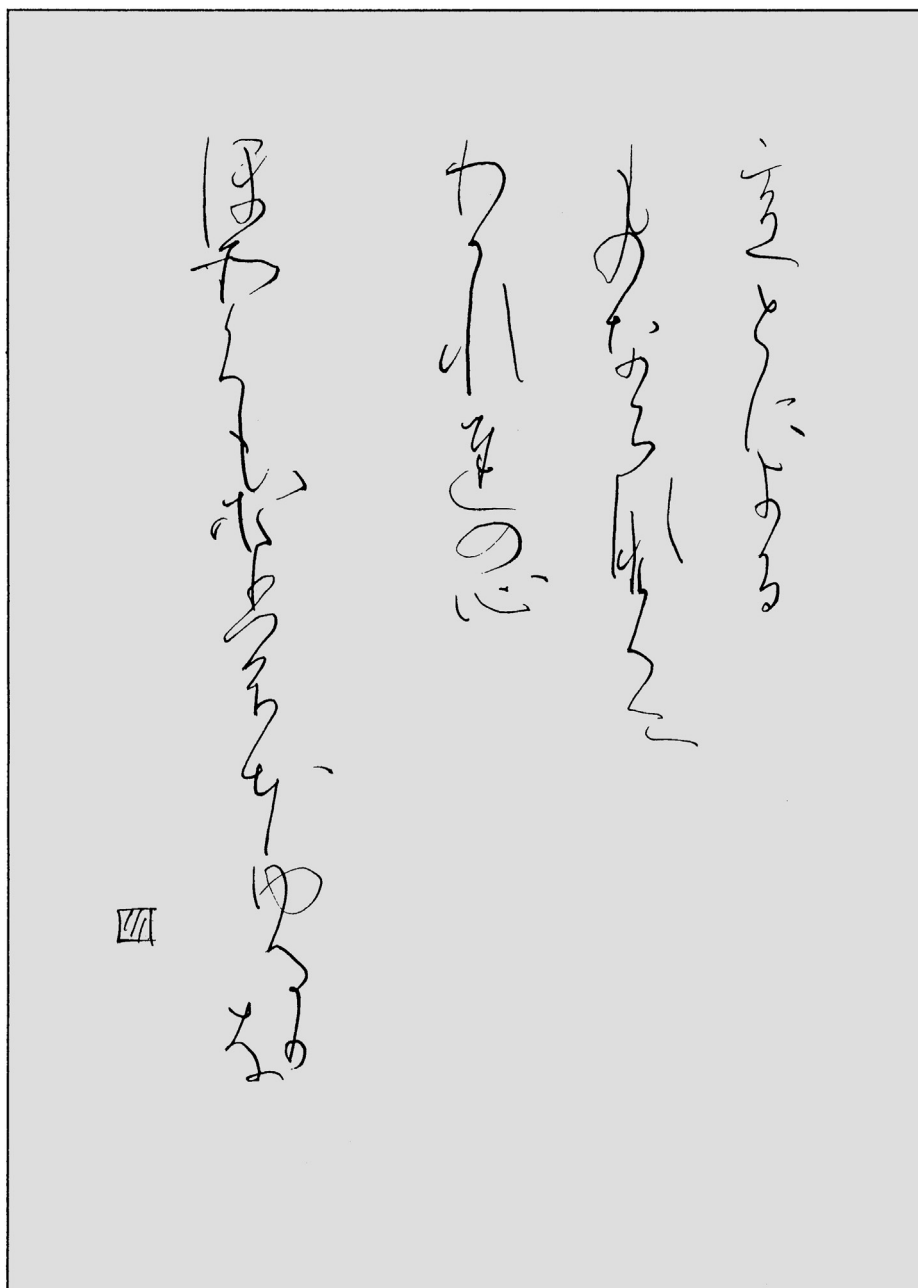
ほん あ み ぎれ
本阿弥切



意 進 万 多
いのちにもまさりて たゞみね
越 爾 利 者 遊 免
をしあるものはみはてぬゆめの
さむるなりけり
ふるみちのつらき 支
あつさゆみひげもとすゑ我がた 多
によるこそまされこひしきことは

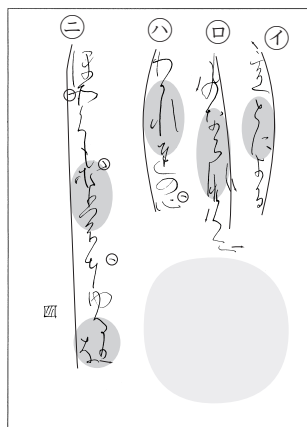
締切り 二月二十三日（必着）

築瀬舟香書



〔解説〕

〔歌意〕糸に縊られるものでもないのに、都をあとにしてひとりたどるこの道は、何とも心細く思われてならない。
〔出典〕古今和歌集
（新潮日本古典集成）



- ①と②、③と④、⑤と⑥、⑦と⑧、それぞれ呼応。
- 大きな間。
- 行の中の密の動き注意。
- の方向注意。
- 心・あ・お・切 点の位置注意。

本阿弥切とは（一）

本阿弥切は「古今和歌集」の写本。もとは卷子本。巻二二（国宝・京都国立博物館蔵）、一四、一六（宮内庁保管）。多くの断簡が各家に分蔵されている名品です。

参考資料「日本書道辞典」

「古筆に学ぶ」共に二玄社

◆3月課題予告

山かくす春の霞ぞうらめしき
いづれ都のさかひなるらむ

締切り 2月23日(必着)

健康のためにと一念発起し、朝の散歩を始めました。寒さは厳しいですが、足下でサクサクと碎ける霜柱の感触は心地よいものです。梅の芽吹きもちらほらと、早春の気配を感じる爽快な毎日です。

健康のためにと一念発起し、朝の散歩を始めました。寒さは厳しいですが、足下でサクサクと碎ける霜柱の感触は心地よいものです。梅の芽吹きもちらほらと、早春の気配を感じる爽快な毎日です。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

ライン川は、1320Kmの長さを持つ、ヨーロッパ屈指の大河だ。

福島県いわき市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 2月23日（必着）

新入から1級まで（行書）

澤^{さわ}

静雨^{せいう}書

梅花万里の外

〔読み〕 梅花万里の外

〔大意〕 梅の花は万里の外にあっても美しく咲き乱れる。

準初段から師範まで

奥村^{おくむら}暢之^{のぶゆき}臨

篋之文波濤於

〔出典〕 集字聖教序（672） 〔筆者〕 王羲之法書より集字

〔読み〕 ^{はちぞうさん}（八蔵三） ^{きょうぶん}篋の文は、^{こうかい}（口海に） ^{はとう}波濤す。

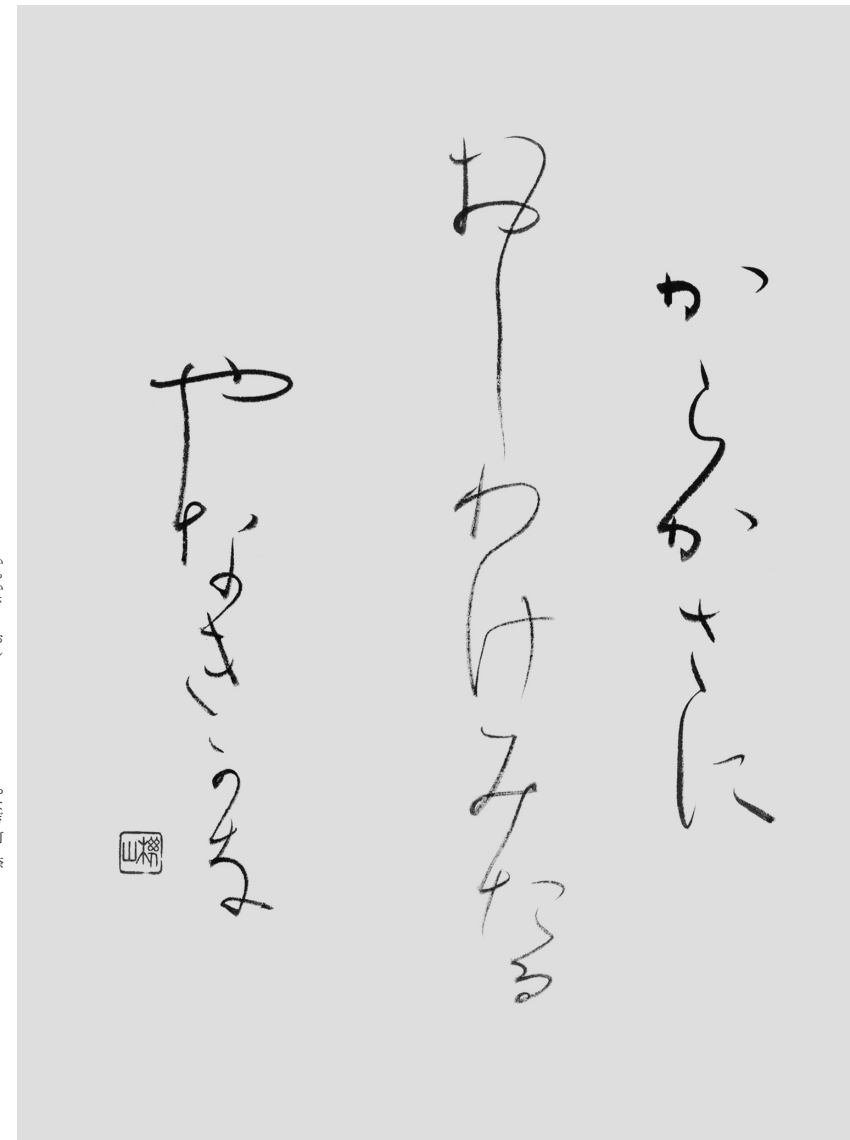
篋
之
文
波
濤
於

一般部毛筆かな課題

締切り 2月23日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

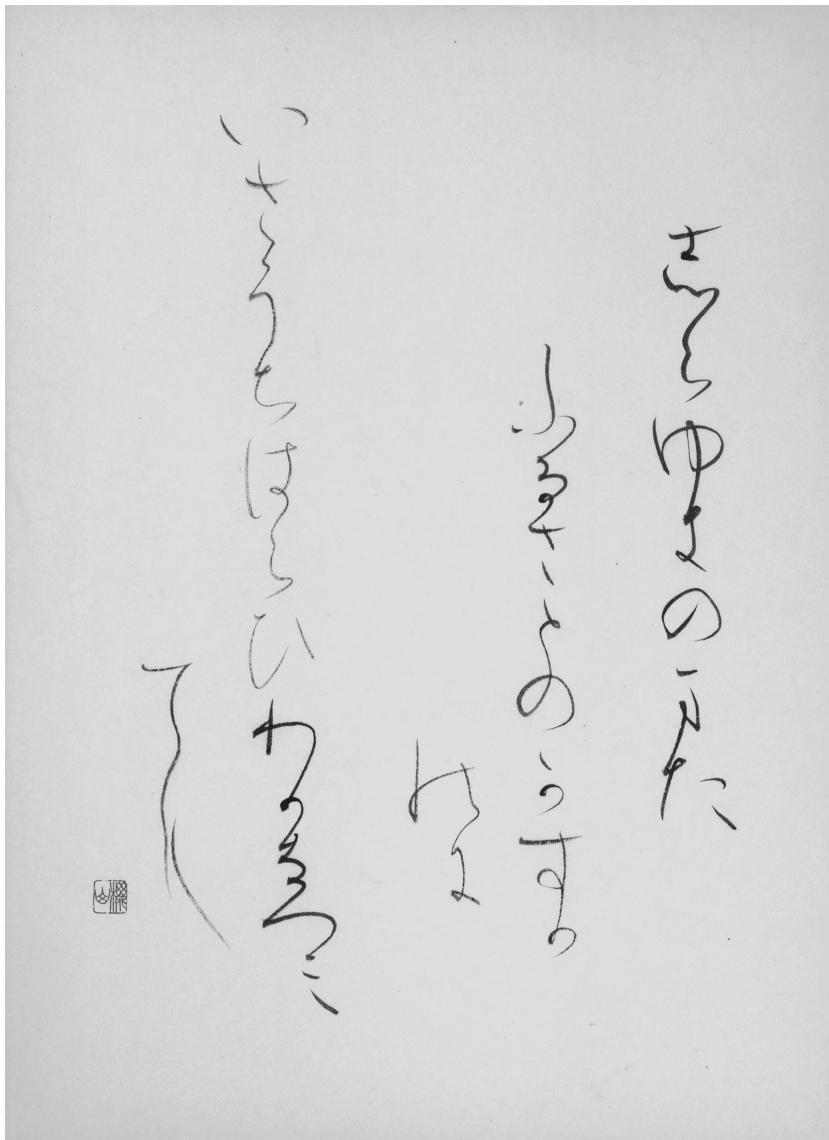


〔出典〕 松尾芭蕉

〔句意〕 しだれている柳の若緑の糸を、そっと傘で押しわけてみた、の意。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕 おおなかとみのよしのお
大中臣能宣

〔歌意〕 白雪がまだ降る古都の春日野で、さあ、降りかかる雪を払って若菜を摘もう。

白雪のまだふるさとの春日野に
いざうちあらひ若菜つみてむ

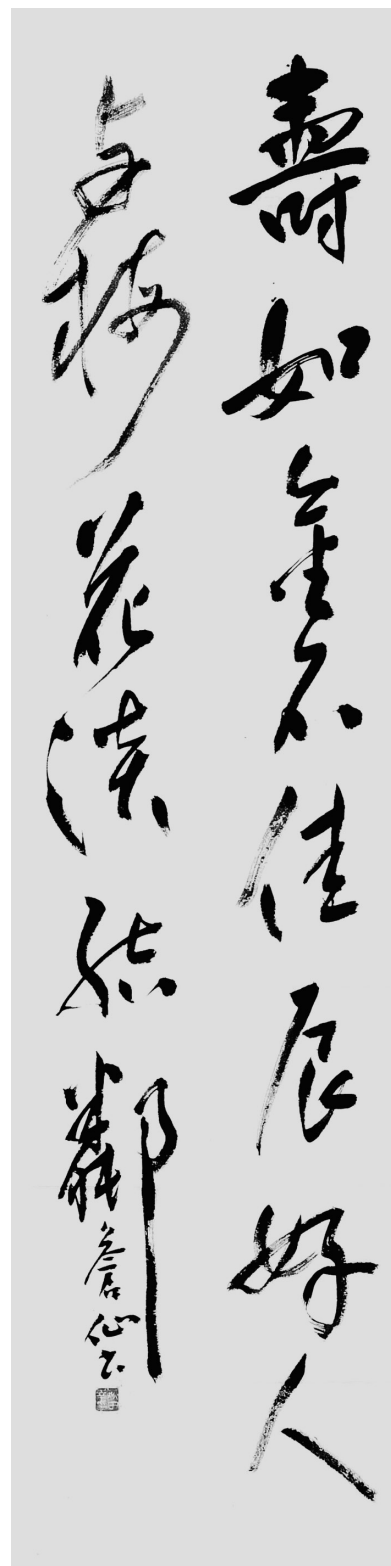
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 二月二十三日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



【大意】命の長いことは金石のようで佳節に逢って好く、人は梅の花と清らかな縁を結んであい親しんでいる。
初出品の方へ
支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

句会にお招きを賜り有難うござい

ました初参加で緊張しました

皆様のお心遣いでいつの間にか

句作に夢中になつていました

湯口淑子

書 華 玲 田 樋

半紙（334mm×240mm）

〔条幅解説〕

大小と潤渾の変化を意識しました。

同じように字を並べると違って変化と統一は至難の業です。そこに苦しみと楽しみがあります。

地区講習会は、受講生五人と、四畳半位の広さがあればよいのです。会本部は皆さんの力になりたいのです。お気軽にご相談下さい。

・句会にお招きを賜り有難うござい

ました 初参加で緊張しましたが

皆様のお心遣いでいつの間にか

句作に夢中になっていました

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

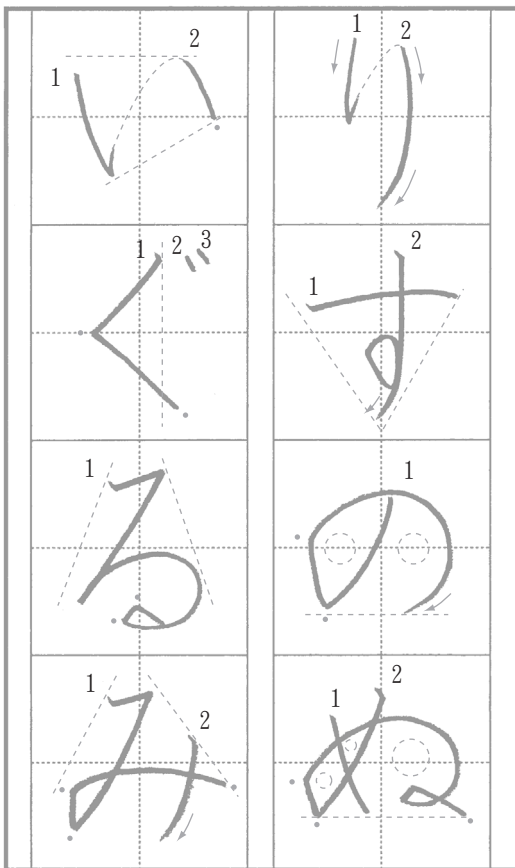
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

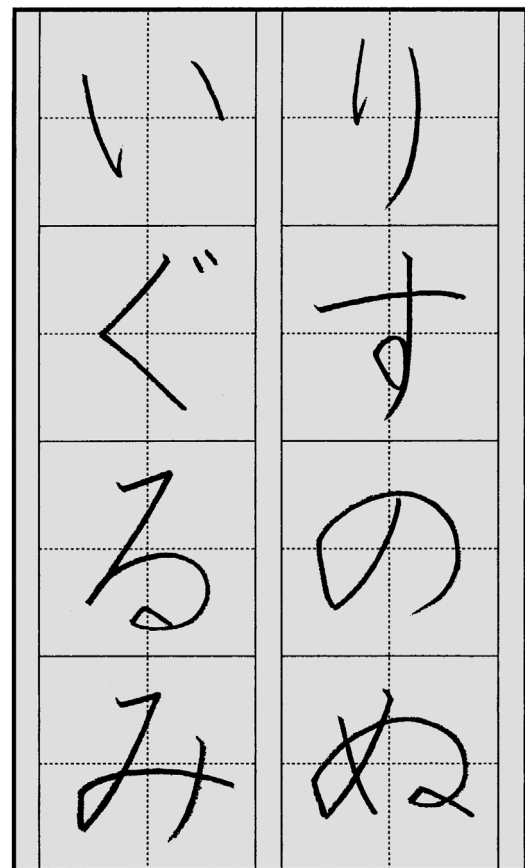
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



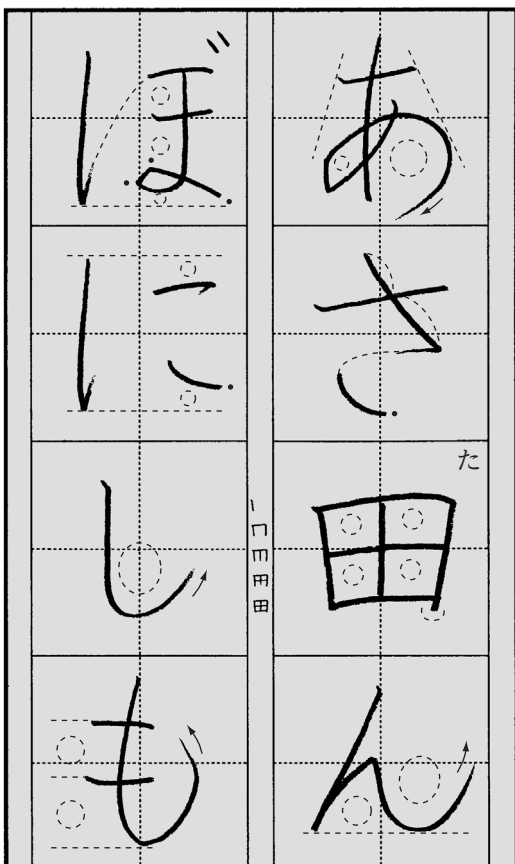
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



よ
う
年

小三年まで
三宅容玉書



新入1級

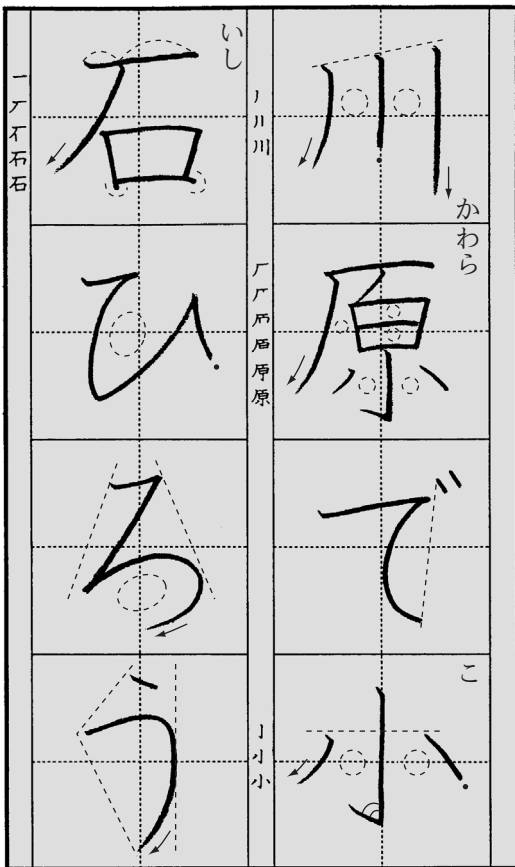
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



新入1級

※川原＝単語としてこのように読みます。



小二年

準初段以上



新入1級

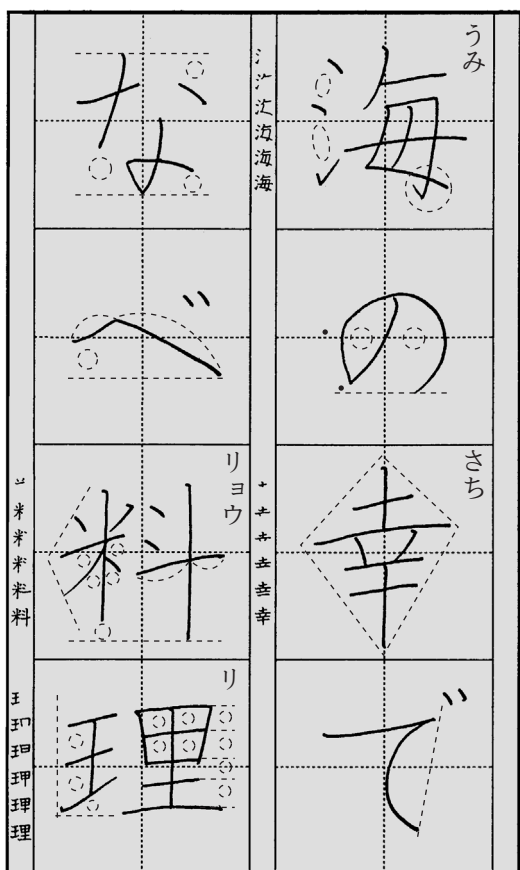
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



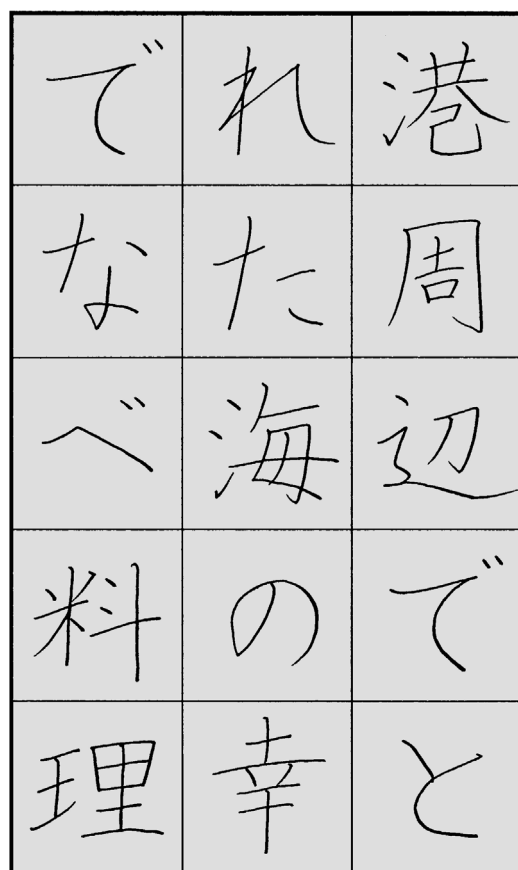
小三年

準初段以上

〈用具〉自由（黒色に限る）

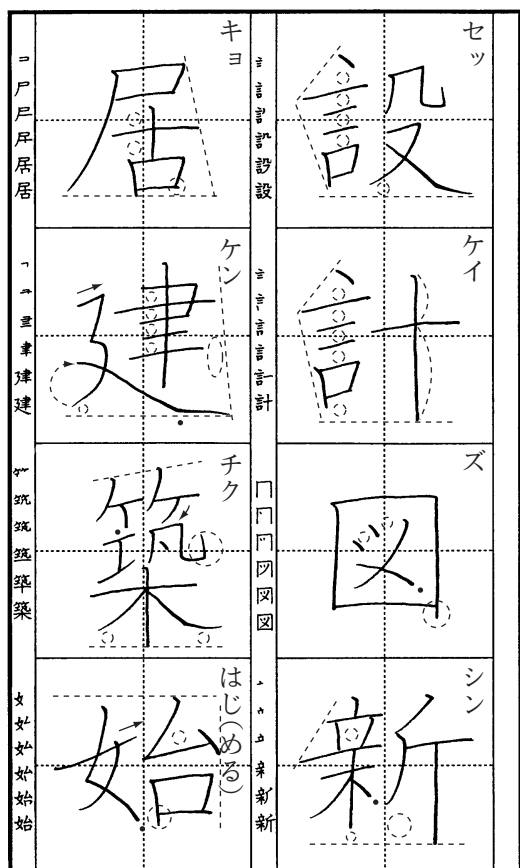


新入1級



小四年

準初段以上



解説（よく見て習いましょう）

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

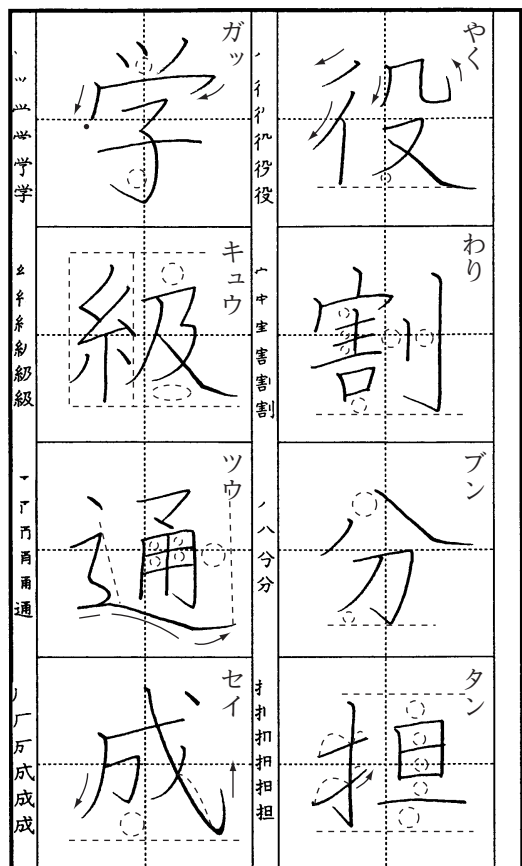


小五年

（全員）

小四以上 須田一葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)



解説(よく見て習いましょう)

小六年



(全員)

◎お手本は、15マスはつけペン、8マスはデスクペンで書きました。



中二・三年 (行書)

中一年 (行書)



▼小三年以下の課題

にの みや たい こう 書
二 宮 泰 光

せ	ひ	元 ^{げん}	福 ^{ふく}	お
つ	び	気 ^き	は	に
分 ^{ぶん}	き	な	内 ^{うち}	は
の	わ	声 ^{こえ}		外 ^{そと}
日 ^ひ	た	が		
	る			



しめきり 2月23日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

くわ ばら えい うん 書
桑 原 栄 雲

化 ^か	考 ^{かん}	鳥 ^{ちよう}	最 ^{もつと}	始 ^し
石 ^{せき}	え	類 ^{るい}	も	祖 ^そ
動 ^{どう}	ら	の	古 ^{ふる}	鳥 ^{ちよう}
物 ^{ぶつ}	れ	祖 ^そ	い	は
で	て	先 ^{せん}		
す	い	と		
	る			

◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

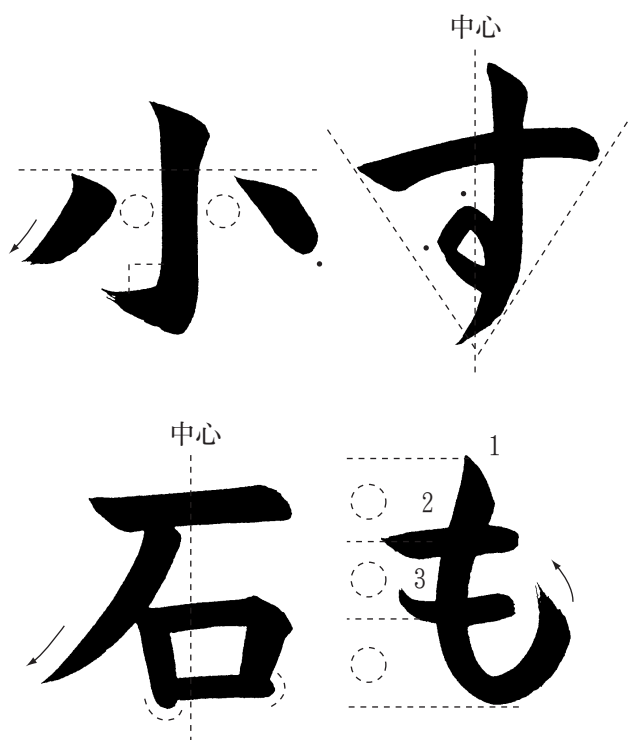
- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。

◎お手本はえんぴつ使用



幼年／小二年

玉樹小
華書



図設計

小五

計

ん茶

小三

わ

設計

計

図

茶

海

幸

幸海

小四

の

小三、小五年

水野香竹書



小六・中二・三年

奥村暢之書

